2020年度（令和2年度）

学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：2019年（令和元年）4月1日
至：2020年（令和2年）3月31日

2020年（令和3年）11月

学校法人駿河台学園 駿台トラベルアンドホテル専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針 …… 1頁

1.2 学校関係者名簿 …… 1頁

1.3 実施状況 …… 2頁

1.4 評価方法 …… 3頁

2. 報告書について

2.1 表の見方 …… 5頁

3.評価結果報告書

3.1 総評 …… 7頁

3.2 評価一覧（評価提言・今後の取組） …… 9頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第4回 …… 10頁

4.2 第5回 …… 15頁

1. 概要と実施状況について

1-1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者（企業、協会、学校、OB等）がお互いの理解を深めることを目的とする。すなわち、学校評価の基本である学校の自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることを目的とする。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

1-2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、学識経験者、関係業界、高等学校、卒業生、保護者により構成された下記の委員に委嘱した。

氏名	属性	選定方法	所属
むらかみ　だいすけ 村上　　大輔	学識経験者	学校推薦	駿河台大学経済経営学部　准教授
そのべ　かずき 園辺　　一貴	企業	企業推薦	株式会社エイチ・アイ・エス法人営業本部 人事・総務・経理グループ統括部長
くぼ　　つよし 久保　　剛	企業	企業推薦	株式会社近畿日本ツーリスト首都圏 個人サポートセンター上席副支店長
あおの　まゆみ 青野　　まゆみ	卒業生	学校推薦	テック航空サービス株式会社 営業業務開発室長
つつい　ようすけ 筒井　　揚介	高校	高校推薦	駿台甲府高等学校　副校長
いしい　けんいちろう 石井　　健一郎	保護者	校長推薦	トラベル学科現在籍生の保護者

I-3 実施状況

第5回目は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただきました。実施内容は下表のとおりです。

会議名	令和２年度 第５回学校関係者評価委員会
開催日時	令和２年 11 月 26 日(木)　13:00~15:00(120 分)
場所	本校 本部校舎 302B号教室
出席者	①　企業・有識者委員：青野、石井、久保、園辺、筒井、村上、以上６委員（音順・敬称略、以下同） ②　本校委員　　：塚原（校長）、井上（教務部長代理）、渡辺千（教務部次長）、 大野（教務部次長）、南（教務課長代理）、服部（教務部・就職指導担当） 渡辺隆（教務部・就職指導担当　兼　トラベル学科長） ③　事務局　　：司会…井上、書記…渡辺千
欠席	なし
配布資料	□第５回学校関係者評価進行表（本プリント） □補足資料（終了後回収） □前回配布済み…（令和２年度　学校自己評価報告書・学校関係者評価シート）
議題等	1.　挨拶（塚原） 委員会出席に対するお礼を述べると共に、新型コロナ感染症による緊急事態宣言を受け実施した開講延期措置やオンライン授業、および現在の学内状況について説明した。 前回の会議を踏まえ、専門学校として社会要請に応えるための施策について議論いただきたい旨を依頼し、開会挨拶とした。 2.　出席者紹介と委員会成立の宣言（坂井） （ア）事務局より有識者委員６名と本校委員７名を紹介した。 （イ）学校評価実施規定　第 13 条４に基づき過半数の出席が認められたため、委員会開催を宣言した。 3.　前回委員会での課題、および今後の改善方策を基に、各基準の評価を確認した（井上）。 4.　学校自己評価中間報告に対し、評価シートに基づく討議。 各委員が事前記入した各基準の点検項目に対する評価シートを基に、委員から意見詳細を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 5.　学校関係者評価委員会の次年度の予定。 評価シート提出期限は 2020 年 12 月 10 日とする。 次回開催は 2021 年 11 月下旬予定。 6.　解散　15:00

I-4 評価方法

1） 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、令和2年度自己評価を実施した。自己評価の点検項目は10分類37項目である。『2020年度（令和2年度）学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員会に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、学内委員から学校関係者に対し、『2020年度(令和2年度)学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況、および評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について説明を行なった。今年度は、学校関係者評価委員会任期切替に伴い、初年度という事もあり、全ての評価項目の説明を行った。

学校自己評価報告書<記述例>　本表は以下のように構成しています。

基準I 教育理念・目的・育成人材像 → ①大項目

点検項目【I-1～I-5】理念・目的・育成人材像 → ②中項目

「チェック項目」

□理念・目的・育成人物像は文章化するなど明確に定められているか

□学校における職業教育の特色はあるか

→ ③中項目における本校でチェックをすべき項目。

本校は 1970 年(昭和 45 年)の学校創立以来、創設者の理念すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校の理念としてきました。学問に対するひたむきさと～

→ ④中項目の点検項目に対する本校の取り組み内容

項番	点検項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0
【I-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
【I-2】	学校における職業教育の特色はあるか	④ 3 2 1 0
【I-3】	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1 0
【I-4】	学校の理念・目的・育成人物像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0
【I-5】	各学科の教育目標・育成人物像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1 0

→ ⑤中項目について自己評価を行った結果に対する記載

1.評価委員が挙げた課題

2.今後の改善方法

3.特に記載が必要な事項

1.課題

「 」

2.今後の改善方策

「 」

3.特記事項

「 」

3）学校自己評価の評価

学校関係者は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行った自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会　記入シート」のコメント欄に記載した。

本記入シートは、第1回委員会終了時に学校関係者へ郵送、またはメールにて送付し、各項目を記入のうえ第2回委員会実施前に事務局へ提出することを依頼した。

<記入例>

2020年度（令和2年度）　学校関係者評価シート

平成２６年度　学校関係者評価シート

自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○

評価者氏名	

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1】 理念・目的・育成人材像

評価結果	適切	不適切

自由記述欄（お気づきの点やご要望を記述してください）

---

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価：学内自己評価を取りまとめた結果。

（適切：４、ほぼ適切：３、やや不適切：２、不適切：１、無該当：０）

第５回の委員会での学校関係者の提案、および評価シート記載内容。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価・提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
1	教育理念，目的，育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-3】	未来構想	3	適切に運営されている(100%) ①社会を踏まえた学校の将来構想の今後の改善方策については、今まさに各企業がAI・ロボット等を活用し益々オートメーション化(自動化)している中だからこそ、より一層人と人とのコミュニケーション力の強化が必要。次年度は評価4「適切」となるように将来構想を明確にして励んでほしい。(小林委員) ②一般教養を高める為のトレーニングであるステップトレーニングというのは留学生にも実施しているか。(矢澤委員)	①まだ方針が曖昧な部分が多く、今後の高校カリキュラムが具体化する中で、方向性がはっきり見えてきてから、学科長会議で話し合って結論を出していく。 ②留学生は、日本語能力の基礎力のアップがまず優先される為、現時点では、日本人だけ実施している。留学生には入学前の日本語補習を実施して[illegible]、
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	

学校関係者の提言に対する、本校の今後の取り組み内容（提言の丸付き数字に対応して記載）。

評価提言の（　）内は、各提言に対する学校関係者の比率（評価シートより集計）。

3. 評価結果報告書

3-1 総 評

本校は平成31年（2019年）4月21日に職業実践専門課程の認定を受けて以降、認定校としてふさわしい学校として評価をいただけるよう、また、委員の皆様のご意見を堅実に実現できるよう努力を続けて参りました。

学校関係者評価委員の方々も2年目となり、本校の自己評価が、昨年度の指摘事項を反映されているかなど、メンバーから厳しいご意見があるかと心配しておりましたが、「外部委員の指摘内容を堅実に取り組んでいる」との評価をいただき安堵いたしました。今後も学校関係者評価委員会を実施することで、本校の教育内容の客観性や経営内容の透明性を高め、本校教職員一人ひとりが教育の質の向上に向けて取り組んでまいります。なお、この第5回委員会では、各委員から評価終了との判断を頂きましたので、本年度の委員会は今回で終了とし、次回を2021年度11月に開催することといたします。

当初2020年に予定されていた東京オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルスの感染拡大により延期となり、観光産業はダメージを受ける結果となりました。しかし、ピンチをチャンスに変えるべく、知恵を出し合い新しい生活スタイルに適した観光産業を創造していけねばならないと考えています。

その為にも、業界の皆様からの新しい発想や知恵をいただきながら、社会のニーズに対応したカリキュラムを設定し、実践力溢れる「新しい観光サービス業」で活躍できる若者の育成に邁進する所存です。この取り組みを真摯に続けることを誓い、学校関係者評価委員会の評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
校長 塚原 慶一郎

3.2 評価一覧（評価提言・今後の取組み）

項目	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
	番号	項目名			
本年度定めた重点事項	【1】	企業連携カリキュラム編成	4	適切に運営されている(100%) コロナ禍により企業実習が全面中止になったが、代替授業の提供、およびオンラインによる自宅学習進捗状況の確認の工夫を実行したことは評価できる(久保委員)。 企業における新人研修を調査のうえ、企業の求める人材育成に向けたカリキュラム実施を期待する(石井委員) 就職を成功させるためには、業界と連携した人材育成が重要であり、適切な点検項目と言える(筒井委員)。	観光業界のアフターコロナ後の社会環境の変化を見据え、企業と連携の上、業界ニーズに適応するカリキュラム編成を図る。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%) コロナ禍に内定率を維持するためには、他業種を視野に入れた就活指導は致し方ない(青野委員)。	数年は観光業界の低迷は続くと思われるだけに、本校の学生の資格で就活できる分野を開拓し、指導に活かす。
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%) 実社会で役立つパワーポイントや、採用試験に多用されるグループワークとプレゼン技能を、適切な時期に学習できている(久保委員)。	
		【1-3】	未来構想	3	適切に運営されている(100%) 若手教職員の育成に期待する(石井委員)。 アクティブラーニングの積極的な採用等、授業に工夫があり、4評価でもよい(筒井委員)。 観光業停滞の深刻さを考慮し、幅広い業界で活用可能な技術習得のための新たな授業展開を期待する(筒井委員)。	企業が求める人物像において課題解決能力の育成を強く求められ、その点を踏まえ、カリキュラムの改善を図ってきた。しかしながら、まだ不十分な面もみられる為、自ら考えた事を自分の言葉で発言し、討議できる力の養成を図るグループワークを一層組み入れたカリキュラム構成を検討していく。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	適切に運営されている(100%)	
		【2-3】	事業計画	3	適切に運営されている(100%) 先行きが不透明な情勢だが、魅力ある教育内容を積極的に打ち出し、募集につなげてほしい(筒井委員)。	感染がワクチン接種で集団免疫が出来上がるまでは、観光志望の学生募集の回復は厳しい面が想定されるが、収入に見合った支出の抑制に努めていく。
		【2-4】	運営組織	4	適切に運営されている(100%)	
		【2-5】	人事・給与制度	3	適切に運営されている(100%)	教職員の高齢化が進む中、若手の育成に引き続き取り組み、新旧のスムーズな引継ぎを図っていく。
		【2-6】	意思決定システム	3	適切に運営されている(100%)	コロナ禍、稟議決裁の効率化を図ろうとの姿勢が見られる。
		【2-7】	情報システム	3	適切に運営されている(100%) 期限を設定し、迅速な対応を期待する(園辺委員)。	新システムに切り替える中、運用する面で細部の改善すべき点が見られる。経費を見ながら、優先順位をつけて対応する。
3	教育活動	【3-8】	目標の設定	3	適切に運営されている(100%)	コロナ禍、検定試験の中止・延期があった中、目標値をクリアした。ただ、まだTOEICはハードルが高い。
		【3-9】	教育方法・評価等	4	適切に運営されている(100%)	
		【3-10】	成績評価・単位認定等	3	適切に運営されている(100%) 高校通信教育課程でも同様の問題が発生している。学生の意識改革が必須だが、他対策も探りたい(筒井委員)。	緊急事態宣言により、2か月遅れの開講により、授業が過密スケジュールとなったが、遅滞なく成績評価が行えた。ただし、追試・再試が多く、学生の学習姿勢と出題難度の調整が必要な教科が見られる。
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	3	適切に運営されている(100%) トラベル学科1年生の半数が国内旅行取扱主任資格を取得した。合格率が向上を続けている(渡辺委員)。 資格取得は『自分自身のため』であると認識させるため、高校でも指導を試行錯誤している(筒井委員)。	企業担当者からは資格取得は就職とは直接関係がないとの発言だが、入社後に取得する事は困難な事から、またコロナ禍自宅学習ができ、資格取得試験の合格率アップしたことから、具体的な学生個々の目標を設定させ、検定合格による自らの学習姿への自信を植え付けさせたい。
		【3-12】	教員・教員組織	4	適切に運営されている(100%)	
4	学修成果	【4-13】	就職率	4	適切に運営されている(100%)	
		【4-14】	資格・免許の取得率	3	適切に運営されている(100%) 資格取得は就職後のスキルアップに必要である点を強調して伝えることで、受験率向上を期待できる(久保委員)。 モチベーションを高めるために、2年秋期に学内試験を実施し、優秀者にインセンティブ(旅行等)を与えるのはどうか(石井委員)。 『自分のための資格取得』という意識を育てるために、資格の利点・魅力を伝えたい(筒井委員)。	全国平均を下回った資格試験に対しては、担当教員と相談の上、改善を図る。
		【4-15】	卒業生の社会的評価	3	適切に運営されている(100%)	

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
5	学生支援	【5-16】	就職等進路	4	適切に運営されている(100%) 本人・保護者が観光業の深刻さを理解し、異業種を視野に入れた就活を実践できるよう、職業観を広げる指導に期待する(筒井委員)。	就職指導の高い評価をいただいている中、コロナ禍の課題として学生が職種を限定して入学するため,専門学校生は職業観が狭い特徴がある。就職先に自宅通勤を指定するやや過保護な親も少なくない。このコロナ禍を乗り切る為に、新卒での異業種でも正規雇用を目指し、その後、コロナが収束し、観光業の求人が戻った所で、希望職へ転職する選択肢を検討するよう、キャリアガイダンスや保護者会を通じて、学生と保護者の意識改革を行っていく。
		【5-17】	中途退学への対応	4	適切に運営されている(100%)	
		【5-18】	学生相談	4	適切に運営されている(100%)	
		【5-19】	学生生活	4	適切に運営されている(100%)	
		【5-20】	保護者との連携	4	適切に運営されている(100%)	コロナ禍を乗り切る為に、保護者会を通じて異業種でも地方でも新卒での正規雇用を目指し、その後、コロナが収束し、観光業の求人が戻った所で、希望職へ転職する選択肢を検討するよう、保護者の意識改革を行っていく。
		【5-21】	卒業生・社会人	3	適切に運営されている(100%) 旅行業は離職率が高く、数年後には友人関係が希薄になる。企業宛に通知することで同窓会参加者増を期待できないか(久保委員)。 卒業生のつながりを維持するのは難しい。経費・時間を考慮し、同窓会活動に注力しない選択肢もある(園辺委員)。	卒業生への同窓会の働きかけ方については、様々なご意見をいただいたが、現時点では効果的な手法が見つけられていない状況である。更に検討をすすめていく。
6	教育環境	【6-22】	施設・設備等	4	適切に運営されている(100%)	
		【6-23】	学外実習、インターンシップ等	3	適切に運営されている(100%) 複数部署を体験できる企業実習プログラムを期待する。特に、企業の繁忙期に学生を短期ボランティアとして派遣することは、双方にとり利益があると思われるので、検討いただきたい(石井委員)。 改善策がじゅうぶん考えられている(筒井委員)。	今年度は昨年以上に複数部署への企業実習プログラムの設定を企業側にお願いする予定であったが、コロナ禍において、企業実習自体の実施が難しい面があった。 JOBローテーションの設定については、終息後に取り組むこととする。
		【6-24】	防災・安全管理	3	適切に運営されている(100%) 職員全員での防災訓練を実施しているか(園辺委員)。	
7	学生の募集と受け入れ	【7-25】	学生募集活動	3	適切に運営されている(100%) 高校生にインパクトがあるインスタグラム投稿を目指し、学生によるプロジェクトチーム立ち上げを提案する(石井委員)。 SNS配信は募集に大きな影響を与える。高校では、休業期間に配信したオンライン授業が高評価を得、その後の募集増につながったと分析している(筒井委員)。	SNSを活用した学内イベントの動画配信を強化し、またオンライン説明会を設定するなど、取り組んでいく。ガイダンス仲介業者から情報入手を図り、校舎への来校困難な高校生に対しては、リモートガイダンスの勧誘促進への誘導を図っていく。
		【7-26】	入学選考	4	適切に運営されている(100%)	
		【7-27】	学納金	4	適切に運営されている(100%)	
8	財務	【8-28】	財務基盤	4	適切に運営されている(100%)	
		【8-29】	予算・収支計画	4	適切に運営されている(100%) 具体的な経費削減策を知りたい(園辺委員)。	紙媒体を削減し、デジタル化を図る。キャシュレス化を図り、業務の効率化を推進する。
		【8-30】	監査	4	適切に運営されている(100%)	
		【8-31】	財務情報の公開	4	適切に運営されている(100%)	
9	法令等の遵守	【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	4	適切に運営されている(100%)	
		【9-33】	個人情報保護	3	適切に運営されている(100%) 対策、改善が実行されており、よい(筒井委員)。	
		【9-34】	学校評価	4	適切に運営されている(100%)	
		【9-35】	教育情報の公開	4	適切に運営されている(100%)	将来的には、グーグルエデュケーションに変更し、リモート授業はZOOMからmeetに転換する方向で検討している。1年程度の移行期間 猶予を設ける
10	社会貢献・地域貢献	【10-36-1】	社会貢献・地域貢献	3	適切に運営されている(100%) 現状の対策だけでも素晴らしい。東京オリンピック・パラリンピックが学生の社会貢献活動のきっかけになることを期待する(筒井委員)。	東京オリンピック・パラリンピックのボランティア活動において参加する学生に対し、活動時間数を考慮した上で単位認定の設定を行った。
		【10-36-2】	国際交流	3	適切に運営されている(100%)	
		【10-37-1】	ボランティア活動	3	適切に運営されている(100%)	

総合評価 【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者から全て『適切に運用されている』との評価を頂きました。学校関係者評価委員の方々は学校・企業・保護者等の立場から、本校が気付かない様々なご意見を、専門分野における経験と見識を以てご指摘くださいました。

質疑応答の中では、本校の取り組みの苦労をご理解のうえ、各学校関係者の組織におけるご苦労もお伝えいただき、情報を共有することが出来ました。

今後は、学校関係者からご指摘を受けた部分、特に評価ポイントが低い項目について、内容を精査し、次年度の教育重点項目として自己点検を実施し、改善に努めてまいります。

4.　学校関係者評価委員会議事録

4-1 2020年度（令和2年度）第5回学校関係者評価委員会 議事録

基準1（教育理念・目的・育成人物像）（音順・敬称略、以下同）

	【1−3】
渡辺隆	トラベル学科では、1年次前期に国家試験対策を、2年次後期に国内旅行プランニング（企画プレゼン・運営・精算）を学習する。本年度は、このうち特にインターネットとサービスホスピタリティ分野について、グループワークを行ったところ、学生の反応はよく意欲的であった。今後も効果的な取り組みを種々実践し、問題解決能力の向上と、コロナ収束後の社会に適応できる人材育成に努めたい。
園辺	当社の2020年度決算はマイナスの見通しだ。旅行業界が元通りに戻らないことを前提とし、少し先の将来を見据え、広い業種で活躍できる人材育成が必要になる。
石井	グループワークの効果を期待する。トラベル学科以外でも取り入れ、逞しい人材を育成してほしい。これまでとは異なる視点で作成するカリキュラムを保護者として期待している。
塚原	企業実習を実施できないため、これに替わる課題として読書感想文の提出を課した。指定図書は、1年生は『なぜ僕らは働くのか』、2年生は『7つの習慣』。読後のグループ討論会を実施予定だ。
久保	新人採用の現場では、20代前半における1歳、2歳の差の大きさを実感することが多い。学生時代の取り組み方で、大きな差がつくのだろう。グループ討議の場では、専門学校生は大学生に押され目立たない。在学中にグループ討議に慣れ、技術を磨いてほしい。
青野	当社の営業会議でも、自分の考えを発表できない若い世代が多い。学生のうちから訓練しなければ社会人になっても実践は難しいだろう。課題に対し、上司の指示を待たずに自発的に行動を開始できる人材を企業は求めている。
村上	アクティブラーニングの取り組みはまだ浅い。文科省から実施指示がある一方、教える側のノウハウは少なく、担当教員への研修が必要だ。例年9月に私大対象の研修会が実施され、新人教員は必須受講としているが、中堅以上の教員も受講が必要だ。
筒井	対面授業を実施するにあたり、どのようなコロナ対策を講じているか。
渡辺隆	館内の消毒と換気。入館時の手指消毒、検温、マスク着用の義務付け。6月は一部クラスを分割のうえ分散登校やオンライン授業を実施した。密を避け、小声で話す等の基本姿勢を教育した。昼休みは職員が巡回し、黙って昼食を摂るよう注意しているが、徹底はなかなか難しい。
（検討事項）	企業からは課題解決能力のある人材を求められており、それに沿うカリキュラム改善を図ってきたが、いまだ不十分である。自らの考えを自らの言葉で発言し、討議できる力を養成するために、これまで以上にグループワークを組み入れたカリキュラムを作成する方針だ。

基準 2（学校運営）

井上	【2−2】運営方針 募集はコロナ禍により不安定な状況だ。就職率も厳しい状況が予想される。経費を見直しながら、堅実な運営を心掛けたい。
（検討事項）	ワクチン接種で集団免疫が出来上がるまでは、観光志望の学生募集の回復は厳しい面が想定される。学生募集が安定するまでは、収入にあわせて支出抑制に努める。

基準 3（教育活動）

渡辺隆	【3−8】目標の設定 【3-11】資格・免許取得の指導体制 2 か月間の休校と企業実習中止の反動なのか、6 月開校時の学生の様子は例年になく意欲的だった。国家試験合格率と英検・地理検定の受験率も向上した。講師による受験指導も効果的だった。
井上	今年度は TOEIC 受験率の増加を目指す。留学生には JPET（駿台日本語能力評価試験）を校内テストとして年 2 回必須受験とした。学習機会を増やして学力を伸ばす方針。
塚原	例年就職率 99%以上の実績を誇ってきたが、今年度は非常に厳しい状況と想定される。就職環境が戻るまで、大学進学や留学という進路を選択する学生も増えるだろう。
石井	資格取得が多いと、就職後に給与面等で優遇されるのか？
園辺	当社では総合旅行業務取扱管理者で、かつ配属先で選抜された社員に手当が支給され、他資格の手当はない。採用面接では、あくまで人物重視だ。採用段階では資格に着目することはなく、書類審査を行わない。期待する人物とは、一緒に働きたいと思わせる人材であり、例えば学生時代に世界一周旅行をした等の特異な経験もその一つだ。資格取得とは自己鍛錬の成果であり、社会人になってから自分が仕事をしやすくするためのツールと考える。
久保	当社は応募者の書類審査を行うが、その後の面接では人間力を重視する。入社後は、取得資格により社内ステップアップ制度における科目免除等特典がある。
青野	当社には 5 年勤務の社員に対し、総合旅行業務取扱管理者の受験料を 1 回、会社負担する制度がある。5 年勤務以上なら有資格者であることが当然という考えで実施している。
渡辺隆	資格は目に見える学習成果であり、意欲を保持するために有効だ。今後も取得を奨励する。
（検討事項）	就職後に必要な資格を取得するのは困難と考える。企業の人事担当者からは、採用時に資格を重視しないとのことであったが、やはり在学中には、具体的な取得目標を設定し、挑戦させることで学習意欲を維持し、成果と自信を得られるよう指導を続ける。

基準 4（学修成果）

渡辺隆	【4－14】資格・免許の取得率 1年生の国家業務取扱管理者試験の合格率は50%（全国平均36%）。2017年度（当時の合格率 38%）に掲げた目標を達成した。2 年生の総合業務試験は合格率が伸びなかった。コロナ禍でなかなか就職内定を得られず、モチベーションを維持できなかったようだ。次年度は50%を目指す。アマデウス検定は受験率 88%、合格率 58%（前年度 41%）と大きく伸ばした。他検定も同様に向上している。担当講師の協力が功を奏したが、学生も良く応じた。
服部	他学科で受験者が多いレストランサービス検定には教科試験（夏期）と実技試験（冬期）がある。本校は例年、教科の合格率が低いのだが、本年度は高かった。実技は得意分野であり、合格率 98%だった。
（決定事項）	全国平均を下回った資格試験に対しては、担当教員と相談の上、改善を図る。

基準 5（学生支援）

服部	【5-16】就職等進路 コロナ禍の就職内定状況は求人数の減少からも非常に厳しく、例年数値への挽回は困難だろう。環境業の打撃が大きいトラベルと留学生クラスの国際観光専科は特に厳しい。 前年度はインバウンド対策としてホテル業界が留学生を多く採用したが、本年度は求人が少ない。来年度の回復も容易には期待できないだろう。
久保	当社は人員削減を行うが、新卒採用は人数を抑制して行う。学生は旅行業以外、例えば鉄道業界などの異業種へ就職活動することを考える必要がある。
渡辺隆	トラベル学科では旅行以外に例えばサービスも学習する。これを強みに数年後を見据え、他業種への就活を指導しているが、応じる学生は少ない。志望動機との乖離や親への遠慮があるようだ。
服部	専門学校生は職業観が狭い特徴がある。職種を限定して入学するため異業種に目が向きにくいのだろう。就職先に自宅通勤を指定する親も少なくない。Go to トラベルキャンペーンによってリゾート、特に箱根の小規模旅館から好条件の求人が来ているが、留学生を含め応募は少ない。親子共に意識改革が必要だ。
久保	大学生にとり地方就職は普通のことだ。成人したら親元から自立するものという概念もある。転職は既に当たり前の時代になった。新卒での正規雇用を目指し、その後、希望職へ転職する選択肢も検討してほしい。採用側としては、アルバイト2～3年の経験よりも、正規雇用の勤務経験を“基礎知識を既に習得済みの社会人”と捉えて評価する。
南	【5-21】卒業生・社会人 同窓会は、専門学校としては珍しい存在。就職や転職の機会に活用できるようメーリングリスト作成を考えている。2019 年度実施の交流会参加者は、卒業後 2～3 年目の同窓生が大多数を占めた。各組織で活躍する中堅の年代にも参加してほしいが、どのような呼び掛けが有効か。愛校心の育み方法も課題だ。

青野	同窓会は 2005 年発足だが、それ以前の卒業生は同業者同士が必要に応じ、既に交流しており、同窓会通知が届いても、交流の幅を広げるきっかけとはなりにくい。若い世代は SNS 配信が効果的だろうが、中堅以上の世代に効果があるかは疑問だ。
渡辺隆	冬期に本校で実施する会社合同説明会には、出店企業から大勢の OB・OGが来校する。この機会を利用して同窓会出席を呼び掛け、一定の効果がある。
村上	大学では同窓会はあるが、就職に役立てる取り組みを行っていない。キャリアセンターでは就職後の追跡調査は、十分な実施ができていない。
井上	学生はクラス担任との結びつきが強い。転職・退職などの追跡調査には、担任が積極的に関われば有効だろう。
(検討事項)	コロナ禍を乗り切るために、本年度は新卒での正規雇用を目指し、コロナ収束後に観光業の求人が回復したら、希望職への転職を検討するよう、キャリアガイダンスや保護者会を通じ、学生と保護者の意識改革を行うこととする。 卒業生に向けた同窓会参加促進策について様々なご意見をいただいたが、現時点では効果的な手法が見つかっていない状況である。さらに検討を進める。

基準 6(教育環境)

石井	【6-23】学外実習、インターンシップ等 複数部署を体験できる企業実習プログラムを期待する。特に、企業の繁忙期に学生を短期ボランティアとして派遣することは、双方にとり利益があると思われるので、検討いただきたい。
井上	【6-24】防災・安全管理 学内マニュアル作成の他、課外授業として池袋防災館で研修を実施し、意識を高めている。
(検討事項)	今年度は、例年以上に複数部署での企業実習を依頼する予定であったが、コロナ禍では実習の実施自体が難しい状況であった。JOB ローテーションプログラムは、収束後に改めて取り組むこととする。

基準7(学生募集と受入れ)

井上	【7-25】学生募集活動 同業の JTB トラベル&ホテルカレッジのインスタフォロワー数は 1000 超だが、本校は 300 弱。一層、SNS 配信に注力する必要がある。動画への反応が大きく、積極的に取り組みたい。日本人対象のオープンキャンパスは、緊急事態宣言の影響で、例年から 3 か月遅れの 6 月開始とした。参加者の保護者からは、2 年後の就職を心配する声が聞かれた。本年度は近県からの出願が減少。進学情報サービス会社の調査によると、地方では東京敬遠の傾向が強く、地元大学や専門学校進学が増加しているとのこと。
(検討事項)	ワクチン接種の進行により早期の感染収束を願うが、それまでの対策として、学内イベントの動画配信の強化と、オンライン説明会の設定に注力したい。また、近県の高校生に対しては、リモートガイダンスへ誘導し、学校との接点を増やしたい。

基準 8（財務）

	【8-28】財政基盤
塚原	2019 年度までは在籍数 700 名台を保ち、収支バランスが向上していたが、本年度は留学生の出願が伸びず、目標数に届かなかった。
村上	駿河台大学でも指定校推薦の出願が一定数あったものの、留学生は減少し、今後を危惧している。募集促進対策は入試制度委員会が行う。学生の興味を引くキーワードとしては『デジタル』『グローバル』が挙げられる。大学案内書の作成時は意識的に用いる。
園辺	『DX（デジタルトランスフォーメーション）』も重要なキーワードだ。AI 以外で人間が活躍するには不可欠だろう。観光業は、ホスピタリティだけでは不充分な時代になった。人口減少対策やキャッシュレス化等に対応しながら存続するには、デジタルを理解し共存する方法を深く掘り下げる必要がある。当社でも担当者を増やす方針だ。
筒井	高校では大学進学が増加した。今年度、初施行する共通テストを避け、AO 出願で早期決定したい希望だろう。高校在籍 3 年間を積極的に評価する選考が学生に好まれている。
井上	専門学校出願は例年より出足が遅いと予想する。最後まで粘り強く募集活動を行うつもりだ。
（検討事項）	紙媒体を削減し、デジタル化を図る。キャシュレス化を図り、業務の効率化を推進する。

基準 9 法令等の遵守

	【9-33】個人情報保護
井上	本年度からパソコンの閲覧履歴からメールや情報持ち出しまで、すべてが駿台グループのシステム管理会社の監視下に入り、情報管理面は大幅に強化された。
園辺	在宅勤務では会社支給のパソコンを使用する。社内のイントラ利用と、USB 使用禁止を徹底している。現在は、パソコン使用場所を社内と自宅に限定しているが、現状に合っていない。1 年以内に他所も利用可となるだろう。
村上	大学は現在、オンデマンド授業を中心に行っている。講師と学生は大学付与のアドレスを使用している。パソコンを持っていない学生用に動画を作成するが、学生が教育系YouTubeに慣れている一方、教員は動画作成力に乏しく、このミスマッチ解消は課題だ。200 名参加のオンライン授業で、学生回答をシェアしたところ、学生は自己を他者と比較し、授業の理解や感想の多様性に大きく反応した。オンデマンド授業の新しい可能性と考える。
（検討事項）	個人情報管理の厳格化が進んだ。将来的にはグーグルエデュケーションに変更し、リモート授業は ZOOM から meet に転換する方向で検討中である。これには 1 年程度の移行期間を設けている。なお、リモート授業における著作権保護の観点から、2022 年度から授業目的公衆送信補償金制度を利用する。

基準 10 社会貢献・地域貢献

筒井	【10-36-2】国際交流 現状の対策だけでも素晴らしい。東京オリンピック・パラリンピックが学生の社会貢献活動のきっかけになることを期待する。
塚原	学園グループ全体として様々な社会支援活動を行っており、本校ホームページで詳しく紹介している。
（検討事項）	東京オリンピック・パラリンピックのボランティア活動に参加予定の学生に対し、活動時間数を考慮した上で単位認定の設定を行った。

4-2 学校関係者評価委員会は第 5 回にて評価完了とし、第 6 回以降は開催しない。

以上